

## 長胴太鼓のお手入れ・保管方法について



本資料では、文化庁 邦楽普及拡大推進事業で貸与している長胴太鼓を保管場所から移動して演奏できるまで、演奏終了後、長胴太鼓を保管するまでのお手入れ・保管方法を解説します。正しいお手入れ・保管方法を身につけ、大切な楽器と長く付き合いたしましょう！

## 長胴太鼓について学ぼう

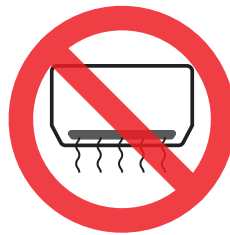
長胴太鼓は、自然の材料を使って製造されている、非常にデリケートな楽器です。ぶつけたり、落としたりすると、破損してしまいます。取り扱いには十分に気をつけ、正しいお手入れ・保管方法を身につけましょう。

### 湿気(水分)には要注意!



長胴太鼓が濡れてしまったら、乾いた布で水分を拭き取り、陰干しをして乾かしてから保管してください。

### 空調\*が直接 当たる場所はNG!



寒暖差の激しい場所や湿度が高すぎたり、乾燥しすぎたりした環境は、長胴太鼓にとっては大敵です。空調が直接長胴太鼓に当たると、乾燥して傷んでしまうので、避けましょう。

\*空調には、エアコンや扇風機、ストーブなどが含まれます。

### 直射日光が 当たる場所はNG!



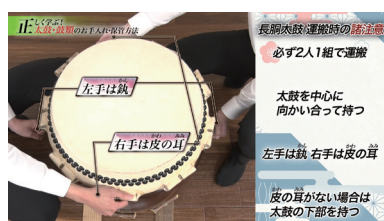
空調と同じように、太陽の光が直接長胴太鼓に当たると、乾燥して傷んでしまいます。直射日光が当たる場所での保管は避けましょう。

# 長胴太鼓の各部位の名称



## 長胴太鼓のお手入れ・保管方法

### 長胴太鼓の設置と運搬



#### 1. 運搬は、必ず2人1組で行ってください。

長胴太鼓を持ち上げる時は、長胴太鼓を中心に向かい合って立ちます。左手で鉄(かん)を、右手で皮の耳を持って、持ち上げます。皮の耳が持てない場合は、長胴太鼓の下部を持つようにしてください。この時、お互いの右手が対角線上に来るように持つと、安定して持ち上げることができます。



#### 2. 運搬距離が長い場合は、台車を使用しても構いません。

長胴太鼓を重ねて運搬すると事故につながる可能性があるため、1台ずつ運搬し、片手で打面を押さえてください。直接長胴太鼓を台車に乗せると皮の破損につながるため、必ず棧(さん)を置いて、その上に載せるようにしてください。長胴太鼓を運搬する時に、引きずったり、転がしたりして運搬しないでください。



#### 3. 演奏場所に到着したら、水平な場所に演奏台を設置します。

長胴太鼓を演奏台に載せる前に、演奏台のネジに緩みがないか、枠組みが外れていないかなど、触って確認してください。演奏台に長胴太鼓を載せるまでに、一旦、長胴太鼓を地面などに置かなければならない場合、直接地面には置かず、棧の上に置くようにしてください。



#### 4. 演奏台に長胴太鼓を載せます。

演奏台には、傾斜があり、高くなっている部分を観客側に向けて置いてください。載せる時は、低くなっている方から、ゆっくりと置きます。長胴太鼓を演奏台に載せたら、しっかりくぼみにはまっていて安定しているか、左右に揺らすなどして、確認してください。設置の向きは、流派で異なる場合があるので、講師の先生に確認してください。

以上で、長胴太鼓を演奏できる状態になりました。

## 長胴太鼓のお手入れと保管方法



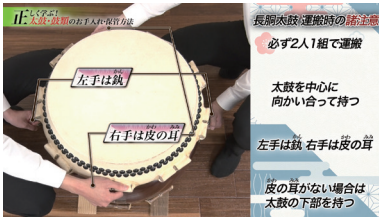
### 1. 演奏台から下ろし、長胴太鼓の汚れを落とします。

演奏台から長胴太鼓を下ろす時、直接地面には置かずに、水平な場所に毛布などを敷き、その上に横にして置きます。

はじめに、毛ばたきで打面や鉤の隙間などの目立つ汚れを落とし、その後に、必ず乾いた手ぬぐいで力を入れずに、撫でるように拭いてください。

円を描くように拭くことで、長胴太鼓の打面を傷つけることなく汚れを落とせます。長胴太鼓を拭く時にタオルを使用すると、タオルの繊維が皮に引っ掛かり、皮が傷ついてしまいます。

そのため、タオルではなく手ぬぐいを使用しましょう。



### 2. 保管場所へ、長胴太鼓を運搬します。

運搬方法は、「長胴太鼓の設置と運搬」の「手順1、2」を参考に行ってください。

また、長胴太鼓は、湿気や乾燥に弱いため、直射日光の当たらない、風通しの良い室内に保管するようにしてください。



### 3. 棧の上に長胴太鼓を置いて保管します。

保管する時、地面と長胴太鼓、長胴太鼓同士の間、棧などで隙間を作ってください。隙間を作ることで、長胴太鼓の皮に空気が触れるため、皮が傷みにくなります。

なお、長胴太鼓を重ねて保管する場合は、二段重ねまでにしましょう。

保管の時、長胴太鼓に布などをかけると、塵や汚れの付着防止、湿気対策になります。逆にビニール袋をかけると、ビニール内部に湿気がたまり、太鼓が傷む原因になるので、絶対に避けてください。

棧がない場合は、ホームセンターで売っている、木の板などで代用しても構いません。代用品を使用する時には、下記の3つの点に注意するようにしてください。

- ・太鼓の直径よりも大きいサイズであること。
- ・皮が傷つかないように、面取りなどの処理を行うこと。
- ・2枚の木の板の厚みが同じであること。

以上が、演奏終了後の長胴太鼓を保管するまでの流れとなります。

## 長胴太鼓のお手入れ・保管方法に関する注意点



1. 長胴太鼓が濡れてしまった時は、乾いた手ぬぐいで拭いてから陰干しをします。  
太鼓に使われている木や皮は、水分と相性がよくありません。  
太鼓が濡れてしまった場合は、乾いた手ぬぐいで水気をとってから、陰干しをして、完全に乾燥させてください。  
早く乾かそうとドライヤーなどを使用するのは、絶対にやめてください。



2. 打面を直接、地面などにつけないようにしましょう。  
太鼓の打面を地面などに直接触れさせると、打面に湿気がたまり、演奏できなくなる可能性があります。  
太鼓同士を、直接重ねることも避けてください。  
長胴太鼓を置く場合には、必ず棧などを使い、打面と接するところに隙間を作り、打面に空気が触れる環境を作ってください。



3. アルコールや濡れた手ぬぐいでは、拭かないようにしましょう。  
長胴太鼓についた汚れを落とすために水拭きしたり、アルコールなどを用いて拭いたりしてはいけません。

## 長胴太鼓のお手入れ・保管方法に関するその他の注意事項



1. 長胴太鼓を数か月間演奏しない場合は、空気に触れさせましょう。  
数か月間演奏しない場合は、保管場所から出して、1時間程度、直射日光が当たらない室内で、自然な空気に太鼓を触れさせるようにしてください。  
適切な保管環境については、楽器店に聞きましょう。



2. 不具合が発生しても、自分たちで補修や修理は、絶対にしないでください。  
本資料に記載されている方法で、お手入れや保管をしても、長胴太鼓に傷がついたり、付属品が破損してしまう可能性があります。  
そうした破損を自分たちで補修や修理をすると、場合によっては、更なる事故等につながるおそれがあります。  
不具合が見つかったら、まずは楽器店に問い合わせましょう。

動画と本資料を使って、正しい長胴太鼓のお手入れ・保管方法を身につけ、より長い期間、演奏を楽しめるよう、日々の取り扱いを怠らないよう、心がけてください。

お手入れ・保管方法の動画はこちらから ▶▶▶



本資料は令和5年度 文化庁邦楽普及拡大推進事業により作成しています。